【第80号】 2020.7.31発行

DRAMA かながわ 80

神奈川県演劇連盟事務局：神奈川県横須賀市米が浜通1-3　Tel.045-263-4472

第17回かながわ演劇博覧会

2020年3月15日（日）※内部発表会として実施

於:神奈川県立青少年センター2階 スタジオHIKARI

文：演劇博覧会実行委員　穂村一彦（劇団「無題」）

２０２０年３月１３日～１５日に開催予定だったかながわ演劇博覧会は、新型コロナウィルス感染防止のため開催中止となりました。この時期に予定されていた他の劇団や演劇部の公演も大半が公演中止となり、その状況は４月になった今でもまだまだ続いています。その後、全国に緊急事態宣言も出されました。見通しのつかない大変な世の中です。

私は演劇活動を始めて１０年になりますが、公演中止というのは初めての体験でした。今まで脚本や役者の問題などが発生することもありましたが、「Ｔｈｅ ｓｈｏｗ ｍｕｓｔ ｇｏ ｏｎ」の言葉を想い、公演成功へ向けて必死に努力してきました。

今回のかながわ演劇博覧会には募集枠上限である１４劇団もの方々にご参加いただいていました。中には今回が旗揚げ公演であったり、今回の公演を機に活動休止するという団体もありました。時期的にもうどの劇団も脚本を書き上げ、最終練習に入っている段階でした。照明プランや大道具についてスタッフの方々とのミーティングも終えて、まさにあとは公演本番に臨むだけという時期でした。そういったこともあり、なんとしても開催したいという想いもありました。

今回の公演中止が正しい判断だったのか、それは誰にもわかりません。関係者全員が頭を悩ませた末の苦渋の決断でした。しかしお客様達の安全とかながわ演劇博覧会の未来を考えるとやむを得ない決断であったと思います。

いま演劇界は大変な苦境にいます。この状況はいつ収束するのか。業界への補助は期待できるのか。何一つ確かなものはありません。

我々は今できる最善のことをやり、未来を信じるしかありません。かながわ演劇博覧会は来年、再来年とずっと続いていきます。ぜひまた皆と一緒に作り、今度こそ無事成功させたいと願っています。

今回せっかくのご縁で集まってくださった参加劇団のために、一般のお客様は招待せず、ごく少人数の関係者のみに向けた内部発表会を開催しました。厳しい状況にもかかわらず非常に高いクオリティの公演を発表してくださった劇団コピュラ様、劇団ぺりどっと様。そして舞台や照明の設営、当日の感染予防対策にご協力くださったスタッフの方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

このような素晴らしい公演を皆様へ広くお届けできなかったことはとても口惜しい気持ちで一杯です。

いつかまた、何の不安もなく、心の底から演劇を楽しめる日々が戻ってくることを祈っています。

第17回かながわ演劇博覧会　内部発表会

● 劇団コピュラ『時間を巡る冒険 ～安楽椅子探偵篇～』

劇団コピュラ主催にして、脚本、出演、全てを担当したこんのかつゆきさんによる一人芝居である。一人芝居は私も昨年作ったことがあり、その難しさに大変苦労した。なのでこんのさんがどういった一人芝居を作り上げるのか、個人的にとても注目していた。完成作品は、哲学的テーマを含めながらも純粋にエンターテイメントとして楽しめる、とても面白い作品であった。

物語はある一人の男が密室で目覚めるところから始まる。男には記憶がない。なぜ密室に閉じ込められているかもわからない。日記やラジオなど、部屋の中にあるわずかな手がかりからどうにか答えを探そうとするストーリー。登場人物がずっと一人だけなのにまったく退屈しない。それどころか、このあとどうなるのだろう？　この男は何者なのだろう？　と、最後まで引き込まれ続けた。

また背面にプロジェクターによる映像を映しており、これが単調になりがちな密室という舞台に良いアクセントを加えていた。大きく表示された秒数がどんどんと減っていく。このカウントダウンがゼロになったときどうなるのだろうと観客席で緊張感が高められていく。

最後に男は舞台を飛び出し、閉じられたサイクルから脱出するべく、会場の扉を開けて外へと歩み去っていく。スタジオＨＩＫＡＲＩの設備を活かした、とても印象的なエンディングであった。

劇団「無題」　穂村一彦

● 劇団ぺりどっと『いちごミルクと1分動画』

劇団ぺりどっとさんの舞台を見るのは、２０１９年１２月に上演された「それでも僕らはアンチノミー・フィリア」を含め２回目だった。前回は超高齢化社会をコメディタッチで描きながらも、日本の未来を考えさせられ、また、家族愛にほろりとさせられる作品だった。今回の「いちごミルクと１分動画」はそんな社会派なイメージを一転させられるものだった。舞台は近所にできたタピオカ屋によって客足が遠のいてしまった喫茶店。主人公である料理の１分動画クリエイターの女性が、その喫茶店でコーヒーに舌鼓を打ちながら、いちごミルクへの恨みと自身の過去を振り返る。料理研究家を志す中で、大好きだった彼氏とすれ違いが生まれ別れてしまっていた。「私が健康を考えて料理を作っているのに、コーヒーではなくいちごミルクなんてものを飲むなんて」と怒る主人公にかなり共感した。傍から見れば大きなお世話かもしれないが、大事な人を想うからこそ、そういう気持ちになるものだ。そして主人公は、あるきっかけから１分動画クリエイターとして活躍していく。ここの回想シーンの役の奪い合いがかなり面白く、男性陣は素で演じていたんだろうかというくらい楽しそうだった。劇の後半では、様々なきっかけを経て、主人公はなぜ自分が料理を作るのが好きだったのか思い出し、再出発していく。凝った設定や捻った演出がない分、主人公が懸命に夢を追いかけるあまり見失っていた大切なものを取り戻す姿が真っ直ぐ胸に響き、じんわりと温かい気持ちにさせてくれる舞台だった。ＹｏｕＴｕｂｅでも今回の舞台を配信しているということなので、暗いニュースばかり流れる日々に疲れた人にはぜひおすすめしたい。

劇団「無題」　マリー

第17回かながわ演劇博覧会　内部発表会　参加者の声

役者としても久しぶりの演博、これをきっかけに演劇を再開しようと目論んでいました。前年から準備を進め、第１稿を書き上げたのが２０２０年１月の終わり。たとえ中止でも、最後まで稽古は続けるつもりでした。

本番２週間前を切った稽古中、かながわ演劇博覧会の中止のお知らせが届きました。しかし、スタッフの皆様、実行委員会の皆様が上演可能性を探っていただいたおかげで、内部発表会の形式が採られ、結果的に「最小の労力で最大の効果」を体現した美しい舞台に立つことができたのです。この場をお借りして、再びお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今回上演した一人芝居は「時間とは何か」をテーマに、やりたいことをやろうと詰め込みました。「時間」を考えるために、宗教や哲学や科学の知見を骨格にして散文的にアイデアを膨らませました。企画当初から舞台上のイメージが先行していたので、映像と１人のオッサンの身体を使い、不穏で奇妙な味わいの作品にしたい狙いがあり、物語は細部から全体へと組み立てる、建て増し方式で書きました。

元々の着想の一つに、聞こえない人のために字幕を用意する裏テーマを設けたのですが、これが役者の私を苦しめる。最後まで字幕の表示タイミングに振り回されてしまい、到達したい演技を表現しきれなかったのが悔やまれます。一方、その字幕や映像で投射されたカウントダウンに四苦八苦するオッサンの姿を見せることも狙いの一つであり、１勝１敗、と自己採点。

少しの負担で演劇を上演できる場が提供されているのは非常にありがたいと感じました。次回演博では、また新しい団体が参加し、常に新鮮な演劇を見ることができる場になって、今後も更に発展していくことにも期待しています。それまでどうか、みなさんご無事で。また劇場でお会いしましょう。

こんのかつゆき（劇団コピュラ）

私たちがかながわ演劇博覧会を知ったのは、劇団を立ち上げた２０１５年のことでした。
それ以来、観客として何度も参加させていただく中で「いつかは自分たちも役者として参加したい」という想いが強くなっていきました。昨今の情勢により残念ながら内部発表会という形でのお披露目となりました。

ここで、我が劇団が内部発表会に参加を決めた経緯をお伝えしたいと思います。それは今回のかながわ演劇博覧会への参加が団長・まるまどかの活動休止前最後の活動であったということです。団長は２０１７年の劇団ぺりどっと第５回公演以来、私生活との両立のため役者として劇団活動に参加することはありませんでした。しかし、活動休止が決まり、団長から「活動休止前に再び役者として参加したい」という話があったことで、その想いに応えたい劇団員は満場一致で内部発表会への参加を決めました。本番については「楽しかった」の一言に尽きます。また、その本番を迎えるまでには劇団公演だけでは決してできない素敵な出会いも沢山させていただきました。冒頭で「残念ながら」と書きましたが、このような状況下であっても発表の機会を作ってくださった関係者の皆様には本当に感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

最後に、今後について少しお知らせさせてください。劇団ぺりどっとは次回公演に向けて動き出しております。　昨今の情勢により活動は大幅に制限されておりますが、事態が終息するその時に向け、今できることに向き合っております。お互いにこの状況を乗り越え、ぜひ次回公演でお会いしましょう。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

河内卓（劇団ぺりどっと）

TAK IN KAAT

虹の素「夜明け」　作／演出:桜木想香、熊手竜久馬
2020年5月14日～17日（中止）

朝は来る

文：虹の素　熊手竜久馬

前略。皆様お元気ですか？

２０２０年上半期は、虹の素にとってとても印象強い半年でした。

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めて５ヶ月あまり、日本でも感染者が続出し、感染拡大防止の観点から、大人数が集まるイベント等の自粛要請が出、公共施設も次々と休館することとなりました。稽古場としていた施設も閉まり、公演をすることに対して圧力をかけるといった社会の風潮に、５月に予定されていた、虹の素初の単独でのＴＡＫ　ｉｎ　ＫＡＡＴも、ご存知の通り中止の運びとなりました。劇団創立１０周年の記念公演として劇団史上最大規模で、且つ動員目標１０００人という決意と挑戦を持ってのぞんだ公演でした。後になって振り返れば、中止という決断は間違っていなかったと思いますが、当時は未来などわからない中での苦渋の決断でありました。

題材に選んだのは、３０年以上昔に、貧困にあえぐガーナの村でパイナップル畑を興し、村長となった、青年海外協力隊員の武辺寛則氏。ＪＩＣＡ横浜の後援を受け、武辺氏と共にガーナに派遣されていた方とコンタクトを取り、当時のガーナの様子や武辺氏について取材をさせてもらい、脚本を執筆していました。（武辺氏は１９８９年２月に２７歳という若さでガーナで逝去）彼がガーナの地で過ごした２年間は、村人たちに大きな勇気を与え、生活を向上させました。私たちの生まれるよりも前に生きていた人物から今を生きる私たちにもつながる意志を感じ、より多くの人とこの想いを分かちたいという思いの中、公演の準備をすすめ、稽古をしておりました。

中止にする決断をする直前の稽古では、干ばつで村の作物が全て枯れてしまったシーンの稽古をしていました。中止に至るまでの稽古等でかかった経費は全て赤字損失となり、劇団員も半数が退団いたしました。他にも失ったものはたくさんあると思います。しかし私たちは「まだ大丈夫だ」と思うことができました。まだ生きる力はたくさん残っていると。

本当に学びと発見の多い数ヶ月でした。今、何ができるのか、何をするべきなのか、真剣に考えました。何故私たちは演劇をしているのか、演劇のどんな側面に魅力を感じているのか、演劇の悦びとはなんなのか、演劇の在り方とはなんなのか、ひたすら問いかけた数ヶ月でした。人間の強さと弱さ、美しさと醜さを実感した数ヶ月でした。長い夜を越え、朝を迎えた後、今回上演することができなかった「夜明け」という作品を、情熱の意志を、必ずお届けしたいと強く願っております。それまで私たちも日々研鑽を積み、努力を重ね、そして健康第一に、日々精進して参りたいと思います。

とにかく私たちは元気です。これからますます暑い季節がやってきますが、皆様どうぞ身体には気をつけて過ごしてください。また笑顔で劇場でお会いできることを楽しみにしております。

2020年度 神奈川県演劇連盟総会

文:オッスたかのり（劇団かに座）

１９６０年、神奈川県内で活動する劇団を中心に結成された神奈川県演劇連盟は今年で６０年を迎えることとなりました。昨年度は劇団おらんだ・劇団砂からマカロン・theater 045 syndicate の３団体が新しく加わり、２０２０年７月現在加盟団体は２３まで増えました。（個人会員は６名）。

１９６０年と言えば日本で初めてカラーテレビでの放送が開始された年です。当時の情報源と言えばテレビ・ラジオ・新聞が中心でしたが、今やインターネット環境とデバイスがあれば、無限に存在する情報源にアクセスできるようになり、自分の好みでサイトやメディアを自由に選ぶことができる時代となりました。演劇の世界もその時代に沿ったスタイルに変貌していかなければいけないのかもしれません。

さて本来でしたら毎年５～６月に神奈川県演劇連盟の総会が行われるのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で開催自体は中止。各議案の報告は質疑応答も含め、すべてメールでやり取りを行うという形式を取りました。その中から今年度各事業の活動方針や公演予定等、公的に報告できる情報を抜粋して掲載します。

【はじめの言葉】 神奈川県演劇連盟理事長　横田和弘（劇団河童座）

昨年末、中国の武漢という一都市の新型ウイルス発生のニュースが、半年もたたないうちに世界を覆い尽くすとは誰も予想をしていなかったかもしれない。今私たちは、歴史的な暗黒の時代に生きているのかもしれない。命、経済、文化、あらゆる分野に歴史始まって以来という言葉が踊っていた。

世界恐慌に違いない。今更、新型コロナウイルスについて語るつもりはないが、演劇にとって３密、クラスターの意味するところは大きい。劇場はおろか稽古をする場所もない。さらに風評とも戦わなくてはいけない。「生」を売りにする演劇にとってこれほどの痛手は無い。しかし、これは演劇のみならずテレビ、映画、音楽、等々ありとあらゆるジャンルの文化の歴史的ピンチと言える。いや、経済を含め生きることそのものの大ピンチと言える。世界的な自粛が必要なのが現実だ。

こんな時こそ文化が！と言いたいところだが、今演劇が羽ばたける空間が無い。虚しい想いである。

さらに　神奈川県演劇連盟にとっては、大きな問題が生じている。それは、演劇資料室長荒井賢一氏の突然の訃報だ。さらに山元洋一氏の入院。演劇連盟の拠点とも言える資料室の運営も、連盟にとっては大問題だ。文化課、センターとの演劇資料室のこれからを考える場をとの話が進むなか、コロナ騒ぎで今、中断している。これも早急に解決して行く問題なのだが、行政との答えを出すにはやはり今の現状では無理があるかに思える。それでも待っていられる問題でも無いので、今年度の大きなテーマである。

新型コロナウイルスは、終息の声も聞こえ始めてはいるが、果たしてこれが出口なのか、はたまた入り口なのか判らない。今日の決定が、明日には変更になるかもしれない状況です。まだしばらくは続きそうな気配です。

でも、文化があるからこそ人間。ただ生きるだけでは人間らしくない。その時に真っ先に必ず必要になってくるのが文化、演劇と信じて、演劇人ならではの、明るさと強さで、この難局を乗り切って欲しいと願っています

【役員体制】

理事長：横田和弘（劇団河童座）　再任
副理事長：藤井康雄（京浜協同劇団）　再任　／　緑慎一郎（演劇プロデュース『螺旋階段』）　再任
事務局長：佐藤典久（G/9-Project）　再任
事務局次長：高島明子（劇団河童座）　再任
会計：福本斉（プラスティックな月）　再任。

【主催事業の活動方針】

・神奈川県演劇フェスティバル　…　調整中。
・かながわ演劇博覧会　…　２０２１年３月開催予定
・ＤＲＡＭＡかながわ　…　発行数３回予定。
・神奈川県演劇連盟合同公演　…　調整中。
・ＴＡＫ　ｉｎ　ＫＡＡＴ　…　予定されていた５月（虹の素）・９月（ガムシャニズム）の開催中止。
・青少年のための芝居塾　…　予定されていた８月の開催中止。
・演劇資料室　…　課題となっている運営問題を中心に、資料室部会と資料室スタッフとの話し合いを設け解決していきたい。
・マグカルシアター運営　…　スタジオＨＩＫＡＲＩで行われるマグカルシアターを、神奈川の小劇場空間のブランドとして定着させることを目標とする。予定されていた４月～８月の公演は中止。９月～３月は１６団体の公演を予定。

【加盟団体の公演情報】

・演劇プロデュース『螺旋階段』　…　１２月１１日～１３日予定。
・京浜協同劇団　…　１１月～１２月予定。
・劇団蒼い群　…　１１月１４日～１５日予定。
・劇団おらんだ　…　１０月／１２月予定。
・劇団河童座　…　１１月２１日～２２日予定。
・劇団かに座　…　１１月２０日～２２日予定。
・劇団唐ゼミ☆　…　１０月～１１月予定。
・劇団こゆるぎ座　…　１０月２４日～２５日予定。
・劇団砂からマカロン　…　未定。
・劇団820製作所　…　未定。
・劇団「無題」　…　未定。
・劇団横濱にゅうくりあ　…　未定。
・theater 045 syndicate　…　１０月２１日～２５日、２０２１年１月２０日～２３日予定。
・G/9-Project　…　未定。
・studio salt　…　未定。
・TEAM IMITATION　…　２０２１年１月１６日予定。
・虹の素　…　１２月２４日～２６日予定。
・プラスティックな月　…　１０月予定。
・マシュマロ・ウェーブ　…　未定。
・まりこ☆みゅーじあむ　…　未定。
・ムームー企画　…　未定。
・横浜小劇場（横浜演劇研究所付属）　…　未定。

僕らの演劇

劇団横濱にゅうくりあ

「ヨコハマ・ラプソディ・イン・ブルー」脚本・監督：泉谷渉
２０１９年12月21日～22日　於：横浜人形の家・あかいくつ劇場

山下公園地下駐車場近くの人形の家の中に 瀟洒な小劇場（キャパ 100 名程度）「あかいくつ劇場」へ足を運んだ。演劇祭に映画の発表会とは珍しいことなのでどんなものなのかとの思いで、神奈川県演劇フェスティバルのノボリをくぐって会場に入った。勿論ではあるがセットはスクリーンひとつ。

ドキュメントのインタビューから始まり、いつしかドラマが展開してゆくのだが、途中でやはり演劇、劇団の作品なのだと思いはじめた。台詞の中に「劇団」「演劇」という言葉がちょくちょく出てくるからだけではなく、目線、構図などは如何にも劇場を意識したもの、演劇的なのだと感じた。

当たり前だが、暗転もなくセットもリアルで、作る手間もない、フットワークも良い。演出の思い通りの現場が出来上がる。まあ、贅沢な演劇とも思える。

内容は如何にも横濱にゅうくりあらしい、横浜（今回は鶴見 花月園の話）をテーマとしたもの。戦前の歌劇団を持っていた頃の話と、競輪場に変化していた頃、そして今、さらには未来の花月園の話が、走馬灯のように目まぐるしく展開されてゆく。確かに舞台での展開は難しく、映画にしかできない手法だと納得をした。そしてドラマの中で出てくる「演劇公演」というのが見られなかったのは未来の花月園の事なのだからだろうと、自分勝手に納得をして劇場を後にした。

多分、鶴見 花月園周辺の人たちにとっては、思い出深い言葉や情景がたまらないのだろうと思うが、よそ者（横須賀）の私には解らないワードがたくさんあるのだろうと、ジェラシーと残念さを感じた次第である。

劇団河童座　横田和弘

虹の素

「失恋博物館Ⅳ」　作／演出：桜木想香、熊手竜久馬　ほか
２０１９年１２月２５日～２６日　於：スタジオＨＩＫＡＲＩ

会場へのいざない方が面白い。これからどこかの遊園地のアトラクションにでも参加するような感じ。入り口の案内人もすでに何かの役のようだ。観る側も会場に入る時からいつもの観劇と違う構えがある。

会場に入ると、客席がない。会場のＨＩＫＡＲＩの空間が全てお芝居のアクティングエリアらしい。何処に座っても良いのだ。しかし客としてはまだ観ていないのだから何処が観やすいのか分からない。場所によっては役者が割り込んで入って来たり、非常に観難い位置になったりする。昔、演劇は役者だけが苦労するのではなく観客も苦労して観なければならない、というお芝居を結構観た気がするが、その頃の事を思い出した。

どんなお芝居かと思った。オムニバス形式のお芝居。失恋というのだから甘ったるいお芝居なのかと思ったら、そうでもなかった。失恋というより様々なお別れのお話。オムニバスだから博物館というわけか。一つ一つは短いが、別れの瞬間の向こうにある人間模様が見えて来て、納得したり思わずニヤッとしたりした。

切ない話。ばかばかしい話。笑っちゃうような話。ちょっとこれ演劇ワークショップやってるんじゃないかと思うような話。壮大な設定の別れの話。想いのこもった悲しい話。単独で話を膨らませれば１本のお芝居になりそうな気もする話もある。でも、このお別れの部分だけを切り取るからいいのかもしれない。長くやったら辛くなるのかな。最後の話は一人芝居。別れる相手は目の前にいないけれど、その想いが語られる。これも失恋なのかな。

別れという一つのテーマでたくさんのドラマをまとめるのも、面白いかもしれない。「失恋博物館」は今回の公演で何回かになるらしい。まだまだ続きそうだ。

劇団河童座　髙島明子

劇団探訪　劇団「無題」

取材
オッスたかのり
（劇団かに座）

劇団「無題」の稽古場にお邪魔しました。劇団創立は２００２年。神奈川県演劇連盟には２０１８年に加盟。現在三代目の団長を務める穂村一彦さん、そして団員の悠希さん・小林さんの三名にお話を伺いました。

―― 劇団「無題」はどんなところ？

穂村：横浜や湘南台を拠点に活動しています。団員の大半が演劇初心者として入団していることもあり「みんなで楽しく、みんなで考えながらやっていこう」という感じです。

―― 劇団名の由来は？

穂村：それがよく分からないんですよ（笑）。どこかの大学のＯＢが集まって創立したらしいのですが、２０１０年頃に私が入団したときには初期の団員はほとんどいない状況で…。劇団名は「枠組みにとらわれない。自由に。」という由来で命名したと聞いています。

―― 入団したキッカケは？

悠希：神奈川でやっている舞台をネットで調べ、劇団「無題」の公演『モノクロイド』（２０１６年１０月）をたまたま観劇したのがキッカケです。穂村さんの書いた脚本に一目惚れして入団を決めました。

小林：演博で『ヒメごと』（２０１８年２月）を観て知りました。稽古場が職場から近いことからも、通いやすく続けやすいと思い入団しました。

―― 今どんな稽古していますか？

穂村：公民館を使わせて頂いていますが、やはり時世的にマスク着用・換気・声の大きさ等に気を付けています。最近はＺｏｏｍやＬＩＮＥ等を利用したオンライン稽古をやったり、映像や音声による作品を企画しＹｏｕＴｕｂｅにアップしたりしています。

―― 劇団としての今後の目標は？

穂村：やはり公演をやりたいです。昨年は三回公演をやったので、そのくらい出来る世の中に戻ることを望んでいます。

悠希：いつか下北沢の劇場でもやってみたいです。演劇の街ですから。

穂村：勝ち負けのあるイベントにも参加してみたい。そしてそこで勝ちたい！

小林：一勝ですか？優勝ですか（笑）？

穂村：そりゃ目指すは優勝でしょ！

全員：おぉ～！！

最後は団長自らが熱い意気込みを見せてくれました。ちなみに取材を行った日には見学者が一名いらっしゃったのですが、その日のうちに入団を決めたそうです。今後の活動がとても楽しみですね！

■劇団「無題」　今後の公演予定
・湘南ひらつか市民演劇フェスティバル
　２０２０年９月２７日

神奈川県演劇連盟加盟団体（５０音順）

●演劇プロデュース『螺旋階段』●京浜協同劇団●劇団蒼い群●劇団おらんだ●劇団河童座
●劇団かに座●劇団唐ゼミ☆●劇団こゆるぎ座●劇団砂からマカロン●劇団820製作所●劇団「無題」
●劇団横濱にゅうくりあ●theater 045 syndicate●G/9-Project●studio salt●TEAM IMITATION●虹の素
●プラスティックな月●マシュマロ・ウェーブ●まりこ☆みゅーじあむ●M.PinK(ミュージカルプロジェクトin神奈川)
●ムームー企画●横浜小劇場（横浜演劇研究所付属）

神奈川県演劇連盟ＨＰ：http://kenenren.org/

ＤＲＡＭＡかながわ[第８０号]　発行日：２０２０年７月３１日　発行：神奈川県演劇連盟　編集：オッスたかのり(劇団かに座)・吉浜直樹(劇団横濱にゅうくりあ)・穂村一彦(劇団「無題」)・緑慎一郎（演劇プロデュース『螺旋階段』）・寺師涼(TEAM IMITATION)・野比隆彦(studio salt)・波田野淳紘(劇団820製作所)